



百花繚乱の季節到来。  
ピアノの調べの調べ。  
大切な方と一緒に。

# POLE

第70号 2011.5.20  
北海道ポーランド文化協会誌

発行  
北海道ポーランド文化協会  
〒001-0032  
札幌市北区北32条  
西5丁目2-31-902  
佐光方  
電話・FAX  
011-790-8610



フレデリック・  
フランソワ・ショパン  
(1810-1849)  
Fryderyk Franciszek  
Chopin



2011.6/4 (土) 開場 PM 6:00  
開演 PM 6:30

招待券を同封しています。  
ご確認の上、当日忘れず  
にお持ちください。

札幌サンプラザコンサートホール (全席自由 ¥2000)

ショパン/I.J.パデレフスキ/M. モシュコフスキ/A.N.スクリャービン/F.  
リスト 他 <詳細は同封のフライヤーをごらんください。>



イグナツィ・  
パデレフスキ  
(1860-1941)  
Ignacy Jan  
Paderewski



フランツ・リスト  
(1811-1886)  
Franz Liszt



AN.スクリャービン  
(1872-1915)  
Александр  
Николаевич  
Скрябин



モーリッツ・  
モシュコフスキ  
(1854~1925)  
Moszkowski,  
Moritz

## 北海道ポーランド文化協会の皆様

本年も恒例となりました当協会主催のピアノコンサートを6月4日(土)に札幌サンプラザホールで開催することになりました。会員の皆様の変わらぬご理解とご支援の賜物と、演奏部会一同感謝しております。

今年は、駐日ポーランド共和国大使館の領事ドミニカ・ヤキモヴィチブウァシュチクさん=写真右上=が、演奏会に急遽ご来聴くださることになりました。演奏に先立ち、舞台挨拶もしていただけることになり、私達出演者、スタッフ一同、いつもとは少し異なる緊張感の下、練習、準備に励んでおります。今回も、ショパンとポーランドを中心にプログラムを構成しています。ポーランドの作曲家の作品がなかなか手に入らず、苦勞の末のプログラムです。

しかし新しい作曲家にも積極的に挑戦しています。例えば、今回は、ポーランドの第二共和政期の第二代首相(1919年)にもなったパデレフスキの作品を皆様の前で演奏させていただきます。美しいメロディーと少しの土臭さを伴った素敵な作品です。また、モシュコフスキの作品も愛情に溢れた佳作です。そして特に今回の超目玉はスクリャービン！ロシアの作曲家が何故ここにいるのか、大いに楽しみにして頂きたいと思っています。

結果として、札幌では滅多に聴けない作品を多く取り上げる事ができ、お客様にも喜んで頂けるのではないかしら？と思っております。皆々様のご来場、心からお待ちしております。

薄井豊美(うすい・とよみ=当協会・演奏部会)



領事がご来札！

主催：北海道ポーランド文化協会 後援：駐日ポーランド共和国大使館・札幌市・札幌市教育委員会・  
北海道新聞社・日本ショパン協会・札幌大学・(株)ヤマハミュージック北海道札幌店・(株)河合楽器製作所北海道営業部  
交通／札幌市北区北24条西5丁目 地下鉄北24条駅より徒歩3分  
お問い合わせ先／011-377-4780(小林)

ポーランド映画作品 - 岩波ホール上映中 6/10まで

ドロタ・ケンジェジャフスカ 監督・脚本

## 『木洩れ日の家で』(2007)

ワルシャワの森、古い木の屋敷、愛犬のフィラ。そして私、91歳。モノクロームの美しい映像に描かれる老夫人のひとり生きる姿。若き日の甘美な思い出、息子との葛藤。そして…



**私** が最も敬愛する映画監督ドロタ・ケンジェジャフスカの『木洩れ日の家で』(原題「死すべき時」/Pora umierać)が東京の岩波ホールで上映中である。ひとりの少女とジプシーの一団との触れ合いを描いたデビュー長編作『ディアブリー・悪魔(Diably, diably)』(91)、少女の成長をみずみずしい映像で見せる『カラス達(Wrony)』(94)、両親の愛に満たされない少年と少女の悲しい交流を描く『僕がいない場所(Jestem)』(05)、彼女の作品は、どれも素晴らしい。言葉に頼らず、映像美により寡黙に語りかける世界は、われわれ日本人のころになぜか深く沁み入る。

筆者も今回の新作を早速鑑賞したが、『木洩れ日～』では、間違いなく彼女の最高傑作である。郊外の森でひとり暮らす老婆の人生の最後の数日を、美しいモノクロ映像で描き出す。配給元は昨年の当協会の例会『ニキフォル 知られざる天才画家の肖像』上映会の際にお世話になった「パイオニアシネマデスク」である。興行成績を必ずしも期待できないこのような映画の配給権を買い、字幕を付け、われわれに提供してくれ、ひたすら頭の下がる思いである。

今回はポーランド版DVDで見たが、映画館の大きな画面でこの映像美に浸りたいと強く思った。東京に行かれるご予約の方は、ぜひ岩波ホール(千代田区神田神保町)に足を運んでいただきたいと思います。また当協会も、彼女の作品を、まとめて会員の皆様にご覧いただけるような上映会を企画中です(いつになるかはまだお約束できませんが)、斯うご期待! 佐光 伸一(さみつ・しんいち)



監督・脚本は、『カラス達(Wrony)』(94)、『何もない(Nic)』(98)、日本で公開された前作『僕がいない場所(Jestem)』(05)など、子どもを主人公にした傑作の数々で、ドロタ・ケンジェジャフスカ=写真左上=。現在では製作が非常に難しい驚異のモノクローム映像を実現させたのは、ドロタの夫でもあり、本作ではプロデュースも手掛けるアルトゥル・ラインハルト。=写真右上=

Information 例会のお知らせ

## &lt;第56回例会&gt;

JAKIMOWICZ-BŁASZCZYK  
ヤキモヴィチ-ブヴァシュチク領事

## 来札記念映画上映会



2011. 6 / 5 (日)

13:00~15:00

札幌全日空ホテル 23F 桂の間  
(中央区北3西1 ☎011-221-4499)

**領事のお仕事** 領事とは「外国にあって、自国の通商を促進し自国民の必要とする援助および保護に当る公務員」の事。そして、自国民の保護、自国民への行政サービス(各種証明書の発行、婚姻届の受理、在外邦人選挙など)や、貿易・通商の促進(ビザなどの発行、その他の便宜提供など)の役目をはたす大切なお仕事です。

上映作品 一道内初公開  
(駐日ポーランド大使館提供作品)

## 『ショパンのワルシャワ』(30分)

ショパンが青年時代を過ごした都市として、ヨーロッパの近代的な都会でありながら、深い歴史を持つワルシャワ市の魅力を堪能。19世紀の若いショパンが知る町やゆかりのある場所を描いた映画。(日本語字幕付き)

## 『フレデリック 2010』(23分)

ショパンが亡命する以前の、ポーランドにおける彼の愛する土地、街を通し、彼の生きたポーランドを再構築する試みの作品。ここでは彼の伝記を紹介するようなナレーションは一切ない。それどころか人間もあまり出てこない。風景、建築物を、映像により、造形的に、無機質に表現することによって、観る者はそこに生きた生命を自分自身で創造しなければならない。「ショパン=ピアノの詩人」という決まり文句をかなぐり捨て、自由に想像することを可能にする懐の深さこそ、ショパンの持つ現代性だとの、メッセージが感じられる、ミュージックビデオのドキュメンタリー短編である。

【参加申し込み】 ☎ 090 2875 7981 (氏間)



Information

例会のお知らせ

Information

<第57回例会>

ポーランド文学作品朗読会 & 懇親会  
 <予約不要>・直接会場へお越しください。



山桜今年も咲いてくれました。  
 ○月○日。  
 たとえば、午後のポエジアを  
 あるいは、午後のエッセイを  
 戒厳令下のポーランド  
 ヤルゼルスキは何が好き  
 チャスコ、ヘルバァターおひとつ、如何です。  
 栗原朋友子は何読むの  
 絵本くわしい斎田 道子  
 小樽から長屋のり子は自作の詩朗読  
 安藤むつみ。小林 暁子。氏間多伊子。  
 ポーランド人の  
 ポーランド語響(ひびく)午後の教室。  
 itd・・・  
 在札幌のポーランド留学生ら多数出演。  
 遊びせんとや、生まれけむ。  
 アラ、よっ〜と〜。

--第I部--

<作品> ◆ブラウンさんのネコ [スラウオミール・ウォ  
 ルスキ(ヨゼフ・ウィルコン/絵)] ◆タトラのねむれる騎  
 士-ポーランドの伝説による-[アグニシカ・ウメダ再話(越  
 智典子 訳)] ◆「灯台守」から[ヘンリック・シェンキ  
 ヲヴィチ(吉上昭三 訳)] ◆もの食う人びと [ヤルゼ  
 ルスキ(辺見庸 訳)] ◆「寓話集」より[イグナツィ・ク  
 ラシツキ(沼野充義 訳)] 他

<朗読> 斎田 道子/安藤むつみ/小林 暁子/  
 霜田千代麿/栗原朋友子/氏間多伊子/長屋のり子

--第II部--

<作品> 只今選定中 <朗読> 在札ポーランド人

--懇親会--

ポーランドの文学に触れたあと、楽しい交流もあります。

<第58回例会>

第3回 ポ文協 修学旅行  
 ～池田町ワイン祭り～



2011.10/1-2 (土-日)



第一回の修学旅行は16年前。有志10人と現地会員とで、雄大な十勝の秋を満喫しました。とても楽しかったのでその翌年も企画し、牛の丸焼き、ワイン飲み放題に加え、まじめな学習、パークゴルフなど、ポ文協ならではの、楽しくも奥深い修学旅行になりました。

諸般の事情で中休みがありましたが、久しぶりにまた、ワイン祭りを楽しみたいと思います。「学生」の心に戻ってワインで乾杯しませんか。

小林暁子(こばやし・あきこ)

● **会費** : 15,000 円位(バス・宿泊費・ワイン祭り参加費含む。他に食事代がかかります)

● **参加人数・お申込み方法** : 6 月末まで(先着25 名まで。すでに10 名の申し込みがあります)

① 氏名 ②参加人数 ③連絡先を下記までお知らせください。

【事務局】 電話・FAX: 011-790-8610

携帯☎: 090 6447 1700 (佐光)

● **旅程と内容**

|                |                             |             |              |              |
|----------------|-----------------------------|-------------|--------------|--------------|
| 10/1<br>(1 日目) | 札幌発<br><u>10:00</u>         | 帯広<br>14:30 | 池田着<br>15:05 | <u>16:05</u> |
|                | 池田町見学・会員との交流・勉強会、前夜祭(町民屋台)他 |             |              |              |
| 10/2<br>(2 日目) | 池田発<br><u>15:56</u>         | 帯広<br>16:56 | 札幌着<br>18:00 | <u>22:05</u> |
|                | パークゴルフ(清見が丘公園)、ワイン祭り        |             |              |              |

帯広・池田間はバス→JR への変更の可能性あり。



第37 回を迎える「秋のワイン祭り」は、ブドウの収穫とワインの仕込みを祝い、毎年10 月第1 日曜日に開催しています。



## 「大成功」の達成感

振り返れば素敵な日々

～ 激動の4ヵ月と3日間～

実行委員長 佐光伸一

**いきさつ** しがな一研究者である私が実行委員長の重任を与えられたのは、ポーランド留学経験を持ち北海道ポーランド文化協会(以下ポ文協)の事務局を引き受けていることと、映サ会員でもあるという立場による。昨年12月に東京でポーランド映画祭が開かれ、その少し前に作品の上映権を持つ大使館の一等書記官ラデック・ティシキェヴィチさん(以下ラデックさん)から、留学時代からの友人である私に情報がいった。

映サ会員で同じポ文協事務局の北大秘書・氏間多伊子さんを通じて映サに伝えるとすぐ、1月に実行委がスタートした。あとは当日まで、連絡・交渉・会議・作業などあらゆる準備に忙殺された。駐日ポーランド大使の夫であるドキュメンタリー映画監督ヴァルデマル・チェホフスキさん(以下ヴァルデックさん)が行く、ワークショップ(以下WS)を開いてもいいという話は4月になってから“降って湧いた”。連絡したら、なんと福島で撮影中だった。ワークショップでそれを披露してくれないかと新たな交渉になり、決まったのは上映会1週間前だった。

**14日(木)監督来道** 監督は新千歳に14日の9時35分に到着した。朝早くの出立にもかかわらず映サ岩本さんの車で精力的に動き回った。最初は札幌市こどもの劇場やまびこ座で人形浄瑠璃を見学。ヴァルデックさんは矢吹英孝館長自ら演じてくれた「三番叟」をビデオカメラに収める。和太鼓の響きに共鳴し大感激している。ランチは円山の和カフェ「SALON de Mu-Ya」。円山マダムの隠れ家的なお店で、風流を解さない筆者には場違いだったが、たまたま開かれていた茶道教室の先生が抹茶をたててくださる。そのたたずまい、所作の美しいこと。カメラを回す監督だけでなく同行者一同、時の経つのを忘れた。

江別の「ドラマシアターども」に移動。監督は昨年訪れており、当協会副会長で僧侶の霜田千代麿氏、オーナーご夫妻、喫茶店のお客さんなどと再会を喜ぶ。監督が震災後の東北をカメラに収めた未完成作品『災いーFUKUSHIMAの悲劇』を初上映、活発な意見の交換も行われた。映画のタイトルを霜田氏が和紙に墨書し、

これも撮影した。一連の出来事がすべて即興で行なわれた。ひらめきと即応力に私は驚き、自分の頭の固さを恥じた。

**15日(金)** この日は**芸術の森美術館へ**。ガラス工芸、陶芸品に監督は夢中。展覧会はパスして、墨絵アニメを制作している**横須賀令子さん**のご自宅兼アトリエへ。横須賀さんの作品『GAKI 琵琶法師』を見せていただくと、作品に興奮した監督は比喩を駆使し、非常に哲学的なコメントを連発した。墨絵アニメの制作現場は監督も創作者として大きな刺激を受けたようであった。



次はクリエイティブアニメの**キューウイフィルム**のスタジオ。製作者の**齋藤栄子さん、岩澤奈美子さん**が実際にセットを組み、

被災地20カ所6時間の撮影を行ったばかりの『災い FUKUSHIMAの悲劇』を上映会当日流していたハワイ工風景

人形を動かし、コンピューター上のプログラムでそれを動かす様子を見せてくださる。突然、監督は若いお二人に震災インタビューを申し入れ、齋藤さんの愛車、ミニカーパーに通訳の私を含む4人が乗って撮影は30分におよんだ。

**WS**会場のかでる2・7に着いたのは開始の17:30直前。告知期間がなく参加者がいるか心配だったが幸いに道新夕刊で紹介されたこともあり40名近くが集まった。『災い』を鑑賞し、監督との討論に移った。「被災地でシャッターを切るタイミングが分からない」という若いカメラマンの戸惑いには「ドキュメンタリー作家としての使命はまず記録すること。思考は後からついて来る」と明快だった。彼の長編『ヴィンツェンスの足跡を追って』を上映後、「小さな祖国」という言葉をキーワードに民族に関する討論が行われる。筆者を含め日本人の大部分にはいまひとつピンと来なかったが、そこそが異文化に触れるという、充実した時間であった。

**16日(土)映画祭開幕** 最初の作品『ぜったいにダメ!』の上映後、大使館の一等書記官ラデック・ティシキェヴィチさん＝写真右＝が到着。ラデックさん、ヴァルデックさんの挨拶に続き『裏面』を上映。一番にプッシュして来た作品だけに入りも一番だった。ハワイエではヴァルデックさんの『災い』を常時上映。ショッキングな報道映像に比べ少し退屈に感じていたのが、モギリしながら何度も繰





り返し見るうちに「日常の中に起こった非日常」という人間に寄り添った監督の視点が深く理解された。

1日目の上映後、ポーランド大使館主催のレセプションが全日空ホテルで開かれた。スタッフだけの打ち上げと違い、今回知り合った周囲の方たちも招待することで、いろいろな出会い、プロジェクトの立ち上げ、今後の企画の打診など、創造的な集まりになったと思う。

**17日(日)映画祭2日目** 初日はあいにくの強風と雨、2日目は寒かったが、多くのお客さまに来ていただいた。8回目の上映を終え、会場の学術交流会館の前で記念撮影。祭りが終わった後の一抹の寂しさを感じていたのは筆者だけではなかったろう。当初は大任のプレッシャーに潰されそうだったが、実際に動き出すと、涼しい顔で自分の仕事を淡々とこなす映サスタッフの姿に触れ、大船に乗った気持ちで当日を迎えることができた。ぜひこのチームでまた何かやりたいと思えたことが自分にとって一番大きな報酬であった。ヴァルデックさんの二日目の舞台挨拶を引用して感謝の言葉の代わりとしたい。

「今回の原発の事故で私が感じたのは、文明と自然の対立です。文明はこれ以上先に進んでもいいかどうかという問いかけです。ひとは美を作り出すために、自然の力を借ります。庭に花や樹木を植えるのもそのひとつです。それでは文明には美を生み出す力はないのでしょうか。映画は文明の側に属するものです。映像作家として私の試みは映画という文明の力を利用して人の中に美を創造することなのです」 事務局長 (さみっ・しんいち)

## ポーランドの心が広がる 映画会を実感

栗原 朋友子

このたび「ポーランド現代映画セレクション 2004-2009」の上映会は「札幌映画サークル」と「北海道ポーランド文化協会」の初めての共同作業として行われました。これは駐日ポーランド共和国大使館の特別の協力があって実現しました。「札幌映画サークル」は映画鑑賞団体としてこよなく映画を愛する方々が、老若男女、居住地を問わず、活動している団体であるということでした。

「北海道ポーランド文化協会」はポーランドと北海道の間の文化交流を促進することを目的とし、文学・歴史・美術・映画・音楽などポーランドの文化を幅広く愛する人々が結集した運動体です。この二つの団体のポーランドという国に関する理解度が異なるのは、仕方のないことです。しかし今回の映画会はお互いの会の性格を理解した上で分担作業をした良い会だった、と思います。下準備を早くからしてくださった「札幌映画サークル」の方々には心から感謝の意を表します。それに比して、「北海道ポーランド文化協会」は運営委員の有志が当日のお手伝いをしたにすぎませんでした。

チケットもぎりを担当したポ文協の一員として特に印象に残ったことがありました。札幌在住のポーランド人のダニエルさん=写真右=が来場者の一人一人にポーランド式に「Dzień dobry」(Prosze bardzo)と丁寧に声をかける紳士的なあいさつは、ポーランドを知らない人にも好印象を与えたことと思えました。言語と文化の壁を乗り越えて、映画を観る前に紳士淑女の国ポーランドの文化の一端を感じ取っていただけたのではないかと、思い、ポーランドを愛するものとして嬉しく思いました。

副事務局長 (くりはら・ともこ)



「上映記念レセプション」ではみんなの笑顔がひろがった 2011/4/16 全日空ホテルにて



— 親愛なる —  
バルデック・  
チェホフスキへ  
霜田千代麿

昨年の3月に初対面で意気投合したバルデック・チェホフスキが、何の因縁かポーランド映画セレクション2004-2009(当協会例会)に合わせて再度来道された。彼は今回ポーランドから東京へ来るや否や、在京のポーランド大使館の一等書記官ラデック君の運転で、東北の震災地を訪ね、沢山のビデオ映画を撮ってきた。全く、ドキュメント映画監督としての魂には恐れ入る外ない。

その昂奮さめやらぬエネルギーで北海道へのり込んできた。頭より“ユゲ”が出ていた。当協会の配慮に依り、急ぎよ次の様なスケジュールが組まれた。

江別の「ドラマシアターども」にて  
再会をしたバルデック(左)と著者



4月14日(木)朝9時半 チェホフスキ氏 千歳空港着。佐光、氏間、札幌映画サークルの人が出迎え札幌を案内。

午後3時30分、江別「ドラマシアターども」にて霜田合流。災害地のフラッシュ・フィルムを観せていただく。霜田と浅野由美子(美術家)の2人、墨で大紙4枚に「災い FUKUSHIMA の悲劇」と監督の要望により書く。明日のワークショップの準備、映画上映中にロビーを飾る為。

4月15日(金)午後5時30分。かでの2・7 510号室でワークショップを行う。大盛況。

4月16日(土)午前11時。北大学術交流会館にて、「ポーランド現代映画セレクション2004-2009」上映。協賛である大使館のティッシュキェビッチ一等書記官と特別ゲストでチェホフスキ氏が幕間の挨拶をする。

この日、僕の観たポーランド映画では『裏面』『救世主広場』に強いインパクトを覚えた。

終演後、全日空ホテルに於いて、大使館主催による「上映記念レセプション」が開催された。氏間さんの司会に

より、主催者ラデック、当協会安藤会長による、例会と一緒に実行委員会を構成した札幌映画サークルに対しての謝辞があり、霜田の乾杯の音頭“ナズドロビェ”で祝宴が始まった。この日のパーティは札幌映画サークル関係者が多く盛り上がった宴となった。

また、北大のアイヌ研究者の井上名誉教授も出席されており、ピウスツキについてのスピーチをされていた。

バルデックは明日是非、小樽市へ行ってみたいとの事で、来年ピウスツキの像を制作する人と、その友達の方に車で案内してもらえないかと、あつかましくも小生から頼み込んでみた。心よく、明日朝8時にホテルへ彼を迎えに行くと言ってくれた。これもバルデックの人徳か?後で聞くところによれば、その日、午後小樽より戻り、午後3時より、レクチャーをもったとの事である。この男のエネルギーは凄まじいと改めて感じ入った。

話は前後するが、パーティの後、私とパーティに来られていた一人の女性とバルデックのホテルの部屋へ招かれた。

結論はこうだ。次回彼が北海道へ来た時は登別の知里幸恵記念館を一緒にたずねる。そこでボクは墨象をやる。彼女とバルデックと僕の3人でワークショップをすることが決まった。彼女は知里幸恵の詩集の英語版を次の日バルデックのホテルへとどけると約束してくれた。

・・・バルデックに色んな宿題を出され、そして、別れた。  
Do zobaczenia (ド.ゾバチェニア) また、会いましょう!

副会長 (しもだ・ちよまる)

監督がお気に入りの場所「ドラマシアターどもIV」「ども」は安念智康氏のニックネームで、喫茶店の名前であり劇団の名前



どもさんと笑顔の素敵な奥様がまさんには、今回もたいへんお世話になった

監督のご要望に応じて墨で書かれた『災い〜』の大紙は、ワークショップや上映会当日にも掲示された





## 深い感動を呼ぶ 珠玉の名作ふたたび

～ ポーランド映画から ～

柏木 由美子

『裏面』を見て、昔見たポーランド映画を思い出しました。映画のタイトルは忘れてしまいましたが、こんな内容でした。ある若い女性が身に覚えのない罪で逮捕され、投獄されました。長年の服役終了後、彼女は外の世界に連れ戻されるのですが、あるアパートの階段まで連れてこられて「ここがおまえの夫の家だ。夫と子供が待っている」と言われます。結婚したことも子供を産んだこともあるはずのない彼女は怪訝そうな顔でそのアパートのドアを見つめる、というシーンで終わる映画でした。

逮捕されたときは若く生き生きとしていた彼女ですが、服役後は眉間にしわが刻み込まれ、目はうつろで、失われた時間の重さを物語っています。社会体制に翻弄される運命を描いた映画は、いかにもポーランドらしいポーランド映画のように思えます。『裏面』からも社会体制という巨大な怪物とそれを守ろうとする公安の冷たさ恐ろしさ、ささやかな幸せを懸命に守ろうとしている庶民の生活を垣間見ることができます。サビナと母親、祖母は特別裕福ではないけれど、日々の暮らしを丁寧に過ごしている。その中でサビナは硬貨を飲み込んで排出する。ブロニスワフはなぜそれを知っていたのでしょうか。想像すると背筋が寒くなります。

妊娠してしまったサビナに対する母と祖母のセリフも印象的です。「愛情なんていつかなくなるけど、子供は産んでおけば後々心強い」といったような内容でした。人生の苦楽を味わい尽くした母と祖母の、なんて割り切った、したたかな考えでしょうか。

そうして生まれた子供が父親のブロニスワフにそっくりな息子で、しかし父親とは違いとても優しく、さらに、父親が公安だったのに対して、息子はカトリックポーランドのタブーであるゲイだということにブラックユーモアを感じます。子供を産んで、社会体制の変化を経験し、サビナの人生はどんなだったのでしょうか。

息子がこのように優しい人に育ったということは、サ

ビナも母親としての幸せは味わったのだろうと想像します。サビナもその母や祖母同様したたかに自分の人生を送り、ブロニスワフを殺したことは墓場まで持って行くのでしょう。

『ぜったいにダメ!』→  
『あなた、嘘をつかないで』↓



人気女性脚本家ウェブコフスカによるラブコメディの傑作2作品。

今回は上映された4本とも見せていただきました。『ぜったいにダメ!』『あなた、嘘をつかないで』は、今までに見たことのない種類のポーランド映画でした。このような楽しい現代ポーランド映画を、是非また上映して下さい。4本の映画を自分の好みでもおもしろかった順に勝手に順位をつけるとしたら、

- 1位 『ぜったいにダメ!』
- 2位 『あなた、嘘をつかないで』
- 3位 『裏面』
- 4位 『救世主広場』です。みなさんはどうでしたか。



<著者紹介> 20年ほど前までは、シヨパンはフランスかどこかの人だったっけ?という程度のポーランド認識しかなく、ポーランドは私にとって白地図地帯でした。そんな私が、1993年に青年海外協力隊の日本語教師としてポーランドに行く機会を得ました。マレーシアでの日本語教師の仕事(同じく青年海外協力隊)を終えて、帰国し、仕事を探している時にポーランド行きのお話を目にしたので、「おもしろそう!」と飛びついたわけです。それがポーランドとの出会いで、帰国後ポ文協のことを知りました。

文・写真 (かしわぎ・ゆみこ)

評判のよかった  
モギリ嬢とモギリボーイ  
(左から) 安藤むつみさん  
著者、ダニエルさん





↑ サヨナラ 最終日、チェホフスキ監督とティシュキエヴィッチ書記官を囲んで、会場を背景に記念撮影。



イラストレーターにチラシとポスターを発注した。これがモノを言って自信満々に配布できた。  
← プロの技



3つの受付  
← ↑ →  
2階 映 1階 モ  
映 映 ギ  
サ 映 日 ポ  
入 入 券 文  
会 会 売 協  
受 受 入 売 担  
付 付 入 場 当







# ポーランド現代映画セレクション 2004-2009

Report



↑ワークショップ 4/15 かでる2・7。「小さな祖国」を説明するチェホフスキ監督と通訳の佐光実行委員長。映画タイトルの墨書を飾り、質疑・討論。飛び入りに近い企画だったがポーランド映像作家の震災ドキュメントに関心は高く盛会だった。



↑人形浄瑠璃の撮影 「東海道中膝栗毛」の弥次喜多人形(写真左)「三番叟」(写真右)一部を収録。文楽人形に触れ、ご満悦の監督。

↑舞台挨拶 チェホフスキ監督の最後の言葉に多くの人が感動した。

## ↓大使館主催レセプション

16日夜上映後に全日空ホテルで。映サ、ポ文協など47人が参加。乾杯、談笑のなかの記念撮影。右はポーランド国歌の合唱





観客のみなさんの  
「アンケート」を  
紹介します。

ありがとうございました！



Wybór filmów polskich  
współczesnych

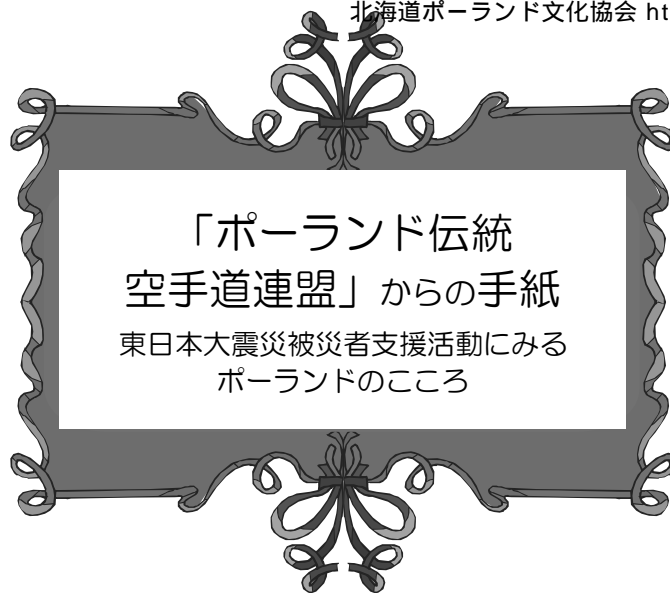
左から 『裏面』  
『救世主広場』  
『ぜったいにダメ!』  
『あなた、嘘をつかないで』

|   |  |   |
|---|--|---|
| <p>映画もワークショップもとても良かったです。自然と文明の問いかけ私も同感です。沢山の参加で驚きました。(70代 男性)</p>   | <p>『裏面』の主役の演技スゴ！感激しました。時代背景を知っていれば、もっと楽しめたかな・・・(20代 女性 I・S)</p>  | <p>ポーランド劇映画祭グランプリを受賞した『裏面』(2009)よりあとの作品を観てみたいです。(40代 男性 T・T)</p>  |
| <p>娘の話聞き、昨年より少しづつポーランドに興味がありました。今、自分の信仰している宗教の知人もポーランドについて話してくれました。今度、本当に行ってみたいです。(50代 女性 R・O)</p>  | <p>『裏面』とても面白い作品でした。講演も少しだけ聞くことができ、違う場所違う国のことも共感しながら見ることができる映像の力を改めて感じました。(20代 女性 E・N)</p>  | <p>『裏面』は勝手な思い込みのイメージ通りの内容でよかった。『あなた、嘘をつかないで』のコミディで何となく救われたようです。横にいる人が信用できないことは恐ろしいですね。(60代 女性)</p>  |
| <p>『裏面』はどうなるか先が読めずにワクワクした。女性の強さを感じた。(20代 男性)</p>  | <p>Super!!! Bardzo ♡♡ もっとポーランド映画が観たいです。(20代 女性 M・O)</p>  | <p>観られる機会のない作品を上映頂き、ありがとうございました。(30代 女性)</p>  |
| <p>全体にシリアスなものともコミディをとりまぜて良かった。『裏面』は過去の肅清の時代を、『救世主広場』が一番印象的だった。嫁・姑の問題、夫の浮気、ヒロインのこわれていくさまが痛々しかった。住宅問題や職の問題、この家族にお金があれば解決の糸口も、またこのように憎み合うことも傷つけあうこともなかったと思う。『あなた、嘘をつかないで』は美しい街並みが良かった。(60代 女性)</p> | <p>ハリウッド映画のようなチャライ内容に比べやはりヨーロッパ映画はいい。4本それぞれに味わい深いものがあり、ポーランド映画のイメージが新たになった。現代のポーランド映画の魅力が十分に伝わり 映像・音楽が素晴らしい。(50代 女性)</p> <p>仏映画をしのぐラブコミディ。ポーランド映画もすてたものじゃない。(60代 男性)</p> | <p>我々が見てきた映画といえば、ワイダとかポランスキーとか。こういう『あなた、嘘をつかないで』のノーテンキな映画は楽しい。ロシア映画にも見えるが、ロシア、ポーランド文化の研究者は皆、きまじめなんでしょうね。(50代 男性)</p> <p>『裏面』面白かったです。会場も座席にテーブルがあって良かったです。機会があればまた来たいです。(30代 女性)</p> |
| <p>『あなた、嘘をつかないで』はコミカルな会話が素晴らしい。充分楽しめました。(60代男性 Y・A)</p> <p>とにかく素晴らしかったです。(50代 女性)</p>   | <p>『あなた、嘘をつかないで』はスタンダードだけど笑えてホロリでゲー。『救世主広場』は後半「？」という部分があり・・・ちょっと欲求不満でしたが良かったです。(50代 女性 K・I)</p>  | <p>ポーランドに暮らしたことがあるので、映画を見ていると色々なことを思い出しました。街並みもとてもなつかしく、充分楽しめました。本当にありがとうございます。(60代 女性 Y・O)</p>   |
| <p>『救世主広場』は今まで見たことがない全く新しいタイプの映画で非常に良かった。(女性 S・W)</p>   | <p>『裏面』いつの世どこの国でも同じだが男は滑稽、女はしたたかで冷静。(70代 男性)</p>   | <p>今後もポーランドなど諸外国の一般劇場での公開しない作品を見たい。(70代 男性)</p>   |
| <p>仕事を休んできました。とても良かった。(50代 男性)</p> <p>『裏面』は映像・音楽の組み合わせがシュール。(60代)</p>   | <p>『あなた、嘘をつかないで』はさわやかで清潔感のあるストーリー。冒頭のエメラルドグリーン的大海とパープルの空でグイッとひきこまれた。坂本稔さん(40代)</p>   | <p>『ぜったいにダメ!』は最後の部分がものすごく良かったです。また、機会がありましたら見に来ます。よろしくお願ひします。酒井盛暢さん(30代)</p>  |





支援プロジェクトを伝える「ポーランド伝統空手道連盟」のホームページ



「ポーランド伝統  
空手道連盟」からの手紙  
東日本大震災被災者支援活動にみる  
ポーランドのこころ



ポーランドにおける日本の伝統武道に対する関心は非常に高く、柔道、空手、合気道、相撲、剣道等がとても活発。

当協会の副会長、霜田千代磨さんのもとに「ポーランド伝統空手道連盟」から連絡がありました。

それは東日本大震災で被災した子供たちを夏休みの間、引き受けて、保養、スポーツ合宿などを通し、彼らを励ましたいということでした。霜田さんがポーランド滞在中に、現地の方に空手の指導を行っていたご縁によるものです。

このプロジェクトの精神を共有するため、右に今回のプロジェクトの趣旨を要約して手紙の内容を掲載。また、ポーランド全土において日本の被災者との連帯の心が生まれています。その広がりの一部を紹介します。

▼コンサート、ショー、大会等の様々なイベントを通じて自発的な義援金の募集が行われている他、ポーランド人道アクション (PAH)、カリタス・ポーランド (Caritas Polska)、ポーランド赤十字社といった主要な慈善・宗教団体が復興支援。▼カリタス・ポーランドは既に 5 万ユーロの義援金を集め、カリタス・ジャパンに寄付するとともに、4/11 まで携帯電話のサービスを活用した義援金。▼ポーランド・ラジオ第 3 番組並びにユニバーサル・ミュージック・グループはチャリティー CD『日本と共に-Solidarni z Japonia』(クリスチャン・ツィメルマンからラファウ・ブレハッチに至るポーランドの名ピアニストたちによるショパン選集)を制作・販売し、その収益の全額がポーランド人道アクションを通じ、日本の被災者義援金として寄付。『日本と共に』キャンペーン名誉総裁:プロニスワフ・コモロフスキ大統領。▼ポーランド・ラジオ第 1 番組はカリタス・ポーランドとの協力のもと、4/4、ヴィルト・ルトスワフスキ記念スタジオにて「東日本大震災復興支援コンサート 東京・ワルシャワ」を開催。発起人:マリア・ポミャノフスカ「文化交差点」フェスティバル・ディレクター、後援:ボグダン・ズドロイエフ

「蔵焼けて 障るものなき 月見かな」と日本の侍であり、歌人でもあった水田正秀は数百年も前に書いている。日本では、近頃、多くの人命、そして多くの家屋が失われた。悲劇というものを私たちはみな、遠くから眺めた。しかし痛みと絶望は、悲劇を経験したものにとってはいつまでもすぐ近くに残ったままである。屋根を失っただけのものといえば、両親をふたりとも失くしたものがいる…。

日本文化の伝統と豊かな価値観の普及に努める、ポーランド伝統空手道連盟は、日本の小さな若者を襲った悲劇に、無関心なままでいることは望まない。2011 年 7 月 21 日から 8 月 31 日の夏休みの期間、最も大きな被害を受けた地域の子供たち約 30 人を引き受けることにした。

このプロジェクトの名誉委員としては、国際伝統空手連盟(ITKF)代表リチャード・ヨルゲンセン、在日ポーランド共和国大使ヤドヴィガ・ロドヴィチ・チェホフスカ、映画監督アンジェイ・ワイダが参加。

また在ポーランド日本大使楠本祐一、スポーツ・観光省大臣アダム・ギェルバノフを招待している。

ポーランド伝統空手道連盟

スキ文化・国家遺産大臣。▼3/23 には、痛みを分かち合うとともに健康回復の願いを込める日本の「千羽鶴」の伝統になぞらえ、100 万羽鶴運動 (Million Żurawi)が全国で開催。▼長年に渡り日本と関わりの深い人々は独自の実行委員会、ワジェンキ公園博物館との共催で、4/2「千羽鶴コンサート」がワジェンキ公園内旧オレンジ園にて終日に渡り開催(100 名のアーティストたちが出演する中)2500 名の来場者、2 万 4000 ズウォティの義援金。後援:ラドスワフ・シコルスキ外務大臣、在ポーランド日本大使館、マゾヴィエツキ県 ▼クラクフ日本美術技術センター「マンガ」は 3/18 にポーランド初となる新内舞踊の鑑賞会を開催。入場券による収入の全額を「マンガ」と交流があり津波による甚大な被害を被った気仙沼市へ寄付。

—ポーランドだより—

## 変わりゆくポーランドの ヨハネ・パウロ2世崇敬

津田晃岐

私はこの2年間、ポーランドの西部の町、ポズナン市に住んでいる者だが、かつて北海道大学で学んでいたことから、札幌とも縁が深い。

また、東京外国大学のポーランド学科にいた時には、ポーランド政府の奨学金をもらい、1998年から2000年にかけてクラクフ市に留学することができた。現在、ポズナン市のアダム・ミツキェヴィチ大学と外国語大学で教えていながら、ポーランド人がいかに日本を見ているか、そしてポーランドがどのように変わったかを興味深く眺めている。そこで、変わりゆくポーランドの現在について報告を勧められた切っ掛けもあり、喜んで筆を執ったものである。

### 1. 列福

今年の復活祭はいつもと少し違った。

復活祭は、年によって日付が変わる移動祝日で、「春分の日の後の最初の満月の次の日曜日」に祝われる。今年は、復活祭が4月24日と非常に遅く、翌25日もポーランドでは祝日であることから、一週間後のメーデー(5月1日)と憲法記念日(5月3日)の祝日も合わせて、大型連休の年、祝日ムードの続く年となった。

しかも今年の場合、さらにもう一つ、多くのポーランド人にとって重大なイベントが5月1日に行われた。ポーランド人教皇ヨハネ・パウロ2世の列福である。——この日、ローマ



1日、バチカンのサンピエトロ広場で行われた列福式に集まった群衆

ローマ法王ベネディクト16世は前法王ヨハネ・パウロ2世(在位1978年~2005年)を「福者」とするミサを行った。広場周辺には100万人以上の信者らが集まった。

教皇ベネディクト16世によってヨハネ・パウロ2世の列福式のミサがバチカン市国のサン・ピエトロ広場で執り行われ、前教皇が公けに「福者」として宣言された。

ローマ・カトリック教会では、生前に聖性を示していたと思われる人物の死後、申請によって、故人の列聖を最終目的とした調査が始められることがある。教皇庁の列聖省が列

聖調査の開始を発表すると、その故人は「神のしもべ」と呼ばれ、その後、故人の生き方が英雄的・福音的であったことが認められると、「尊者」として宣言される。そして「尊者」の執り成しによる奇跡が一つ認定されると、「福者」として宣言され、さらに「福者」の執り成しによる奇跡がもう一つ認定されると、「聖人」として宣言される。故人が「福者」の列に加えられることを「列福」と言い、「聖人」の列に加えられることを「列聖」と言う。「福者」になるための手続きと「聖人」になるための手続きは同じようなものである。まず、故人が生活していた地域の司教のもとで様々な資料が集められ、厳密な調査が行われる。その後、司教区的最終的

な調査資料に基づいて、バチカンの列聖省の専門委員会、枢機卿委員会が再度厳密に調査し、最終的にローマ教皇が教令に署名する。そして、列福式あるいは列聖式のミサによって公けに宣言される。通常、列聖調査は死後5年を経ないと始められない。

「福者」と「聖人」の違いは、認定された奇跡の数と、崇敬される地域の差である。「聖人」は、全世界のカトリック教会で崇敬され、その聖人の日が祝われるのに対し、「福者」は、地域的に崇敬され、その福者の日が祝われるだけである。「福者」は「聖人」の位への前提として付けられる敬称であり、「福者」を経ずに「聖人」になることはない。

ヨハネ・パウロ2世(1920-2005、在位1978-2005)の場合は、異例中の異例である。2005年の死後まもなく列聖調査が始められ、2009年に「尊者」として、そして今回「福者」として宣言された。これから毎年10月22日が「ヨハネ・パウロ」の日として祝われることになる。列福の際に審査された奇跡は、パーキンソン病を患っていたフランス人修道女マリー・シモン・ピエール・ノルマンがヨハネ・パウロ2世に執り成しの祈りを捧げたところ、病気が治癒したというものである。専門の医師や学者が詳しく検査した結果、修道女の病気がどうして治癒したのか、医学的にも全く説明できないとして、列聖省はこれをヨハネ・パウロ2世の執り成しによる奇跡として認定した。パーキンソン病は、前教皇自身が患い、苦しんだ病気である。治癒した修道女は、5月1日の列福式に参列し、元気な姿を公衆に見せただけでなく、前教皇の

「列福式」に飾られた  
故ヨハネ・パウロ2世の写真



聖遺物(生前に採取された血液)を祭壇まで運ぶという大役を果たした。

列福式のミサが行われた日は、ちょうど復活祭後最初の日曜日だった。復活祭の次の日曜日は、2000年にヨハネ・パウロ2世が「神のいつくしみの主日」として制定した祝日である。この「神のいつくしみの主日」の制定を訴えたポーランド人修道女ファウスティナ・コヴァルスカを列福し(1993年)、後に列聖した(2000年)のも、ヨハネ・パウロ2世である。

報道によれば、5月1日の列福式のミサには、世界中から150万人の人々が集まり、ポーランドを含め87カ国の元首や王族も参列した。式場となったサン・ピエトロ広場の中に入ることでできた30万人のうち、およそ8万人がポーランド人だったと言う。ミサでは、聖書の朗読のうち(日曜日の朗読は、常に「第1朗読」、「第2朗読」、「福音朗読」から成り、「第1朗読」と「第2朗読」の間には「詩編」が歌われる)、「第1朗読」の「使徒言行録」の一節は、ポーランド語で読まれた。



故ヨハネ・パウロ2世の「列福式」が行われたバチカン法王庁

## 2. 「私達の教皇」

1978年、枢機卿カロール・ヴォイティワは、58歳で第264代教皇に選ばれ、「ヨハネ・パウロ2世」となった。455年ぶりの非イタリア人教皇、もちろん、初めての「ポーランド人教皇」である。こうして、ヨハネ・パウロ2世は「私達の教皇」となった。

世界がまだ冷戦下にあった時代である。共産主義国出身の、この新教皇の方針に世界中が注目した。カトリック教徒だけでなく、文字通り全世界が見守る中、1978年10月22日、ヨハネ・パウロ2世は教皇として、その第一声を発した。バチカンのサン・ピエトロ広場で行われた教皇就任ミサでの、歴史に残る説教である。

怖がらないで！ 開くのです！ キリストに扉を大きく開くのです！ 彼の救いの力に、国家の境界を、経済制度や政治制度の境界を、文化や文明や発展度といった広い様々な分野の境界を開くのです！ 怖がらないで！ 「何が人間の心の中にあるか」、キリストは知っています。彼だけが知っています！

それは、尤もらしい道徳的な教訓でも、小難しい神学的な説明でもなかった。また、安易な闘争心を煽る挑発でもなかった。新教皇のこの言葉は、

世界を驚かせたと同時に、人々の心に直接飛び込み、個々人がそれまで内に眠らせていたものを揺り起こすことになった。

翌1979年、ヨハネ・パウロ2世は祖国ポーランドへ最初の巡礼を行い、そこでさらに明確に自らの考えを表明した。共産主義政府が神経をとがらせる中、大方の予想に反して、制度の対立にもイデオロギーの闘争にも触れなかった。しかし、希望を失わない信仰と、すべてを受け入れる愛と、対話へ踏み出す勇気とを訴えた「私達の教皇」の言葉は、却って人々を力づけた。当時、共産主義政権のもとで沈黙を強いられていたポーランド人にとって、この言葉がどれほど勇気を与えたことか、想像に難くない。そして、ヨハネ・パウロ2世の言葉は、ポーランド人のみならず世界中の人々の心を捉え、やがて共産主義国家を倒していく原動力となった。

また晩年、ヨハネ・パウロ2世はパーキンソン病に苦しみながらも、公務を続けた。「格好悪い」、「痛々しい」、「威厳が失われる」、「可哀そう」といった批判や同情の声が上がる中、教皇は病気を少しも隠そうとせず、ありのままの自分を公けに晒し続けた。その姿は、カトリック教徒だけでなく、多くの人々の心を打った。

個人的な話になるが、クラクフ市で留学していた時、私はヨハネ・パウロ2世と摺れ違っていた。教皇は1999年6月5日から17日に掛けて、祖国ポーランドへの7度目の巡礼旅行に来ていた。そして6月15日、司祭としての出身地であるクラクフ市で、教皇はミサを執り行う予定だった。ミサは、クラクフの中心街から少し外れた「ブウォニャ Błonia」と呼ばれる広大な芝生公園で行われることになっていた。私の住んでいた学生寮は、そのブウォニャ公園とは目と鼻の先にあった。当時まだキリスト教徒でなかった私は、学生寮の窓の下をブウォニャ公園に向かって朝から絶え間なく続く人々の列を、好奇と冷淡の入り混じった眼で眺めていた。後で

知ったことだが、結局この時、教皇は風邪を引いたためにブウォニャ公園には現れず、代わりにミサを執り行った枢機卿が教皇の説教を読み上げたようだ。

2005年4月2日 午後9時37分(バチ

カン時間)、「私達の教皇」の訃報を知ったポーランド人の悲しみは、非常に大きかった。現に私の友人の一人も、教皇が逝去したことを聞いた瞬間に、思わず自分の車に乗り込み、そのままバチカンま



ローマ教皇ヨハネ・パウロ二世に謁見するヴァウエンサ「連帯」委員長

で飛ばしたそうだ。ポーランドの国中で追悼のミサが行われ、教皇への感謝を記した横断幕を掲げて若者達が通りを練り歩き、色ガラスの付いた墓前灯(znicz)と花束とが町を埋め尽くした。そして、教皇が実際に訪れたことのある場所では、信者達の持ち寄った蝋燭の火が夜の広場に十字架を描いて浮かび上がった。

バチカンのサン・ピエトロ広場で行われた葬儀ミサには、世界中から 400 万人以上が集まり、うち 100 万人がポーランド人だったと言う。人々は「SANTO SUBITO! (今すぐ聖人に!)」の横断幕を掲げながら、口々に「SANTO, SANTO! (聖人、聖人!)」と叫んだ。ミサの最中、棺の上に置かれていた福音書のページを、折からの強風がめくっていった。そして最後には、福音書を閉じてしまった。

ポーランド人の「ヨハネ・パウロ2世崇敬」は、今でも残っている。ヨハネ・パウロ2世に対する絶対的な信頼と尊敬と愛情とは、今も変わらない。ポーランド人はよく「私達の教皇」という表現を使うが、もちろん、それは現教皇ベネディクト16世ではなく、「ポーランド人教皇」ヨハネ・パウロ2世を指している。

今年1月にヨハネ・パウロ2世の列福がバチカンの教皇庁によって発表される否や、ポーランドでは、教区教会から国立大学まで、大小・聖俗の様々な団体・組織によって5月1日のバチカン行き巡礼ツアーが企画された。チケットは即完売となったり、値段が数倍に跳ね上がったたりしたことがニュースになっていた。

また、5月の列福式が近づくと、主婦向けの女性誌から一般向けのゴシップ雑誌、知識人向けの政治雑誌まで、様々な雑誌でヨハネ・パウロ2世に関する記事が現れ始めた。テーマもそれこそ多岐にわたり、ヨハネ・パウロ2世が実は甘物好きだったとか、新品の靴が嫌いだったといった教皇の日常生活に取材した記事から、教皇の足跡を詳しく紹介した伝記の記事、また教皇の業績を歴史的な文脈の中で評価しようとする記事まであった。中には号外や特集を組んだ雑誌もあった。

### 3. JP2 世代

ヨハネ・パウロ2世に対する崇敬は、決して年配の世代に限ったことではない。現在45歳前後の比較的若い世代、またそれより若い世代の中にも、意外と強く残っている。彼らは、ヨハネ・パウロ2世の名前から「JP2世代」と呼ばれ、ポーランドだけでなく、世界中にいる。「JP2世代」は、教皇と若者達との特別な結びつきを端的に表す現象であると同時に、ヨハネ・パウロ2世が若者達に対して持っていた特別な姿勢を証しする言葉でもある。

ヨハネ・パウロ2世は、国連が「国際青年年」に

制定した1985年、世界の若者に向けてメッセージを発表し、翌年から毎年「受難の主日(「枝の主日」とも呼ばれ、復活祭の一週間前の日曜日のこと)」を「世界青年の日」として祝うように定めた。メッセージの中で、教皇は若者達をこう呼んでいる。

あなた達は世界の未来です！ あなた達は教会の希望です！ あなた達は私の希望です！

そして、人生を形成する上で若い時期がいかに大切か、何を目指してどのように生きるべきか、若者達にこう語りかけている。

愛する若者の皆さん！ この豊かさを受け取らないようにしなさい！ あなた達の人生の設計図に、歪んだ、貧しい、偽りの内容を書き込まないようにしなさい！ 愛は「真実を喜ぶ」ものです。

この真実を、現にそれがあつ場所を探しなさい！ もし必要なら、決然として、流通している価値観や宣伝されているスローガンに逆らって行きなさい！ 人間に要求を課す愛を怖がることのないように！

そうした要求こそが——教会の変らぬ教えの中に見出させるように——あなた達の愛を真実の愛とすることができるのです。

さらに1987年以降、世界の若者と直接出会う機会を持つと、ヨハネ・パウロ2世は「ワールド・ユース・デイ」(「世界青年の日」の世界大会として2~3年に一度開催される)を各地で開催した。教皇の真っ直ぐな心と、深い愛と、時折見せる父親のような厳しさとに触れ、若者達も教皇を信頼し、慕うようになった。そして教皇と会うために、次第に多くの若者が世界中から集まるようになり、「JP2世代」が形成された。「ワールド・ユース・デイ」は、これまでにブエノスアイレス(アルゼンチン、1987年)、サンティアゴ・デ・コンポステーラ(スペイン、1989年)、チェンストホヴァ(ポーランド、1991年)、デンバー(アメリカ、1993年)、マニラ(フィリピン、1995年)、パリ(フランス、1997年)、ローマ(イタリア、2000年)、トロント(カナダ、2002年)、ケルン(ドイツ、2005年。この年から現教皇ベネディクト16世)、シドニー(オーストラリア、2008年)で開催され、ヨハネ・パウロ2世の跡を受けた現教皇ベネディクト16世も、前教皇の路線を引き継ぎ、若者達との出会いを持ち続けている。

2005年4月2日、臨終の床に就いていたヨハネ・パウロ2世は、数千人の若者がバチカンに集まってサン・ピエトロ広場で彼を見守っていることを聞くと、「あなた達を探していた。今はあなた達が私の



許へ来てくれて、どうもありがとう」と言ったという。

この言葉を題に冠した映画『あなた達を探していた』が今年3月に封切られた。ヨハネ・パウロ2世について、その在位中の各国訪問や巡礼旅行について描いたドキュメンタリー映画だが、特に教皇と若者達との交流にスポットライトを当てている点が面白かった。

ヨハネ・パウロ2世の映画に関しては、もう一つ、私にとって忘れられない経験がある。ヨハネ・パウロ2世との不思議な縁を感じる経験である。

2008年、ポーランド人枢機卿スタニスワフ・ジヴィシュの回想記『証言 Świadectwo』が映画化された。ジヴィシュ枢機卿は、ヨハネ・パウロ2世がまだ枢機卿だった時代からその秘書として、共に生きてきた人物である。彼の「証言」を基にしたドキュメンタリー映画の再現シーンに、私がフランシスコ会修道士の役で出演することになった。

ヨハネ・パウロ2世は、在位中に100カ国以上を訪問したことで知られるが、訪問先でミサを行う際には必ず、説教やスピーチの一部あるいは全部を、現地の国語で行うのが常だった。実際、1981年に日本を訪問した際も、日本語で説教をしている。そしてその時、教皇に日本語を教えたのが、フランシスコ会の西山達也神父だった。

映画の中で、私は「教皇」に日本語の祈りの一

### 西山達也神父の著書

「日本語で話しつづけた教皇  
ヨハネ・パウロ二世」

日本語習得のご様子、来日時のエピソードとともに、その後のバチカンの毎週水曜日の一般謁見において、特別に日本人巡礼団に向かって”日本語”で話された13年間約250回分のスピーチを収録



節を教えた。それは、ミサの福音朗読後に司祭が小声で唱える祈り、「神の言葉によって、私達が清められますように」というものだった。現在は洗礼を受けてカトリック教徒になっている私にとって、10年以上も前に摺れ違ったヨハネ・パウロ2世との意外な形の出会いだった。

ヨハネ・パウロ2世がその最初の説教で訴えた通り、今や国境は開かれた。イデオロギーの対立は終結し、ポーランドも豊かになった。しかし、今のポーランドがヨハネ・パウロ2世の期待した方向へ進んでいるかどうかは、分からない。それこそ、「JP2世代」、そしてさらに若い世代に掛かっているのだろう。今年2011年8月には、スペインのマドリードで次の「ワールド・ユース・デイ」が開かれ、ベネディクト16世と世界中からの若者達とが出会うことになっている。

つだ・てるみち (ポズナン外国語大学講師)

### <新連載> ポーランド歳時記

Nadleciał gołąb

I przysiadł na balkonie

- więc to już wiosna!

Yōseki



ポーランドの冬は寒いだけでなく、長くて暗い。雪もよく降る。今年の冬もそうだった。ある日のこと、鳩が突然ベランダに飛んできた。三年前の春を思い出す。番いの鳩が我が家のベランダに空の植木鉢を見つけると、巣を作り、卵を産み、二羽の雛が孵った。夫と二人で見守るうちに、雛は育ち、やがて巣立っていった。

ベランダに  
降り立つ鳩と  
春は来ぬ  
陽石

<ポズナン在住ポーランド人女性“陽石”さんから届いた俳句>幼いころから文学に親しみ、特に日本の文学に興味を覚える。日本文学について教えるかわら、ポーランド語への翻訳にも携わる。自らの詩作を雑誌に発表し、俳句は三年前から詠みはじめる。生花を趣味とし、草月流の雅号も「陽石」を名乗る。

### ティシュキエヴィッチ書記官、 朝鮮民主主義人民共和国へ行く

(2011/05)

POLE 印刷日の前日に届いた写真。  
ひとまず、写真のみで近況をお知らせ  
します。ラデックありがとうございます！



今後の活動予定



- ◆ ピアノコンサート 会員無料  
6月4日(土) 札幌サンプラザホール
- ◆ <第56回例会>  
ポーランド共和国大使館  
Dominika JAKIMOWICZ-BŁASZCZYK 領事  
来札記念 映画上映会 会員無料  
6月5日(日) 全日空ホテル 23F
- ◆ <第57回例会> 「午後のポエジア」 会員無料  
ポーランド文学作品朗読会 & 懇親会  
6月18日(土) 北海道大学クラーク会館
- ◆ <第58回例会>  
ポ文協の修学旅行 ～池田町 ワイン祭り～  
10月1-2日(土日) 札幌一池田

会員名簿を同封しました。

皆様のご協力により「会員名簿 2011」が完成しました。個人情報(プライバシー・ポリシー)保護の重要性を認識しつつ、会員間の交流に是非とも役立てていきたいと思ひます。また、今月から5名の新会員を迎えることができました！さらに輪を広げてゆきたいと思ひます。なお、変更や訂正は事務局までご連絡を！

～感謝のこころ～ 被災地義援金に7万円

未曾有の大災害と時間を重ねるかのように、当協会がかつてない企画「ポーランド現代映画セレクション 2004 -2009」に取り組んだ。大使館の協賛により近作4本を道内初上映。4月16(土)～17(日)、北大学術交流会館に598人の観客を集め、別会場のワークショップやレセプションも盛況だった。大使館関係者は「大成功」と喜び、携わった私達は充実した時間と達成感を味わった。そして、東日本大震災の被災地に義援金7万円を送ることができた。すべての関係者、会員と観客の皆さまに心から感謝申し上げます。



(「ポーランド現代映画セレクション 2004 -2009」上映実行委員会)

会費納入のお願い

2011年9月分までを未払いの方はお急ぎください。

【郵便振替口座】

02740-5-19735 北海道ポーランド文化協会

- ◆ 普通会員(年額) 3000円
- ◆ 維持会員(年額1口) 5000円
- ◆ 学生会員(年額) 1500円



Stolowka Centralna na Hokudai

「水曜日の昼食会」開始から10年で通算500回。ポーランドの心ここにあり！

水曜日の昼食会とは、10年前から毎週行われている在北海道ポーランド人の集まりです。今年の7月で500回目を迎えます。私の妻、エディタ =写真左=が北大で水曜の午前中にポーランド語の授業を行うことになったのがきっかけで始まりました。



北大に留学したり、働いたりしているポーランド人が水曜

から北大の中央食堂の2階で一緒にランチを食べるようになりました。北大以外の在札幌のポーランド人も参加することになって、今ではポーランド語を習う人、ポーランドに行ったことがある人も顔を出しています。

どなたでも参加ができますので、興味があったら是非来てください。ランチを食べながら一緒にお話ししましょう。いつも2時ごろまで話が盛り上がっていますよ。



(北大情報科学研究科・当協会運営委員・ラファウ・ジェプカ)

POLE

第70号

ポーレ編集委員会

氏間多伊子/栗原朋友子/小林美保/  
越野 剛/佐光伸一/ラファウ・ジェプカ



## 北海道ポーランド文化協会会誌

POLE 第 70 号 (2011 年 5 月)

## 目 次

|   |    |
|---|----|
| 北海道ポーランド文化協会コンサート [案内]、薄井豊美「北海道ポーランド文化協会の皆様」  | 1  |
| 「木漏れ日の家で」 [ポーランド映画作品—岩波ホール上映中 6/10 まで] 〈第 56 回例会〉ヤキ<br>モヴィチ=ブワシュチク領事来札記念映画上映会「ショパンのワルシャワ」、「フレデリッ<br>ク 2010」 [案内] .....  | 2  |
| 〈第 57 回例会〉ポーランド文学作品朗読会&懇親会「午後のポエジア」 [案内] / 〈第 58 回<br>例会〉第 3 回ポ文協修学旅行～池田町ワイン祭り [案内] .....   | 3  |
| 〈第 55 回例会報告〉ポーランド現代映画セレクション 2004-2009 [2011.4.16-17]、佐光伸一<br>「“大成功”の達成感 振り返れば素敵な日々～激動の 4 ヶ月と 3 日間」、栗原朋友子「ポーラ<br>ンドの心が広がる映画会を実感」、霜田千代麿「親愛なるバルデック・チェホフスキへ」、柏<br>木由美子「深い感動を呼ぶ珠玉の名作ふたたび」、[写真]、観客のみなさんの「アンケート」<br>を紹介します。 .....                        | 4  |
| 「ポーランド伝統空手道連盟」からの手紙～東日本大震災被災者支援活動にみるポーランド<br>のころ .....  | 11 |
| 津田晃岐〈ポーランドだより 3〉「変わりゆくポーランドのヨハネ・パウロ 2 世崇敬」 .....  | 12 |
| 陽石 [津田モニカ] 新連載〈ポーランド歳時記〉 / ティシュキエヴィッチ書記官朝鮮民主主義<br>人民共和国へ行く [2011/05] .....  | 15 |
| [事務局より] 今後の活動予定：ピアノコンサート、Dominika Jakimowicz-Błaszczyk 領事来<br>札記念映画上映会、ポーランド文学作品朗読会&懇親会「午後のポエジア」、ポ文協の修<br>学旅行～池田町ワイン祭り / 感謝のころ～被災地義援金に 7 万円 [ポーランド現代映画<br>セレクション 2004-2009] / ラファウ・ジェプカ「[ポーランド人]『水曜昼食会』開始から<br>10 年で通算 500 回。ポーランドの心ここにあり！」 ..... | 16 |